2025年度学校評価

		評価対象	A	B	C	D	スコア
楽しい学校	保護者	児童	70.8%	25.3%	3.9%	0.0%	96.1%
	児童	自分	51.4%	33.3%	9.6%	5.6%	84.7%
	教職員	児童	43.5%	56.5%	0.0%	0.0%	100.0%
知力の伸長	保護者	児童	55.2%	37.0%	5.8%	1.9%	92.2%
	児童	自分	42.4%	48.6%	6.8%	2.3%	91.0%
	教職員	児童	56.5%	34.8%	8.7%	0.0%	91.3%
体力の伸長	保護者	児童	36.4%	46.8%	15.6%	1.3%	83.1%
	児童	自分	55.9%	28.2%	11.9%	4.0%	84.2%
	教職員	児童	39.1%	39.1%	21.7%	0.0%	78.3%
心力の伸長	保護者	児童	48.7%	44.8%	5.8%	0.6%	93.5%
	児童	自分	42.0%	40.9%	9.1%	8.0%	83.0%
	教職員	児童	21.7%	43.5%	30.4%	4.3%	65.2%
友人関係	保護者	児童	48.7%	44.8%	6.5%	0.0%	93.5%
	児童	自分	47.5%	35.0%	12.4%	5.1%	82.5%
	教職員	児童	8.7%	87.0%	4.3%	0.0%	95.7%
挨拶	保護者	児童	34.4%	48.7%	16.9%	0.0%	83.1%
	児童	自分	40.7%	41.2%	14.7%	3.4%	81.9%
	教職員	児童	4.3%	34.8%	43.5%	17.4%	39.1%
早寝早起き	保護者	児童	40.3%	24.0%	30.5%	5.2%	64.3%
	児童	自分	26.6%	31.1%	24.3%	18.1%	57.6%
	教職員						
朝ごはん	保護者	児童	87.0%	9.7%	2.6%	0.6%	96.8%
	児童	自分	72.9%	15.3%	5.6%	6.2%	88.1%
	教職員						
授業外学習への取り組み	保護者	児童	41.6%	40.3%	16.2%	1.9%	81.8%
	児童	自分	41.8%	33.9%	19.8%	4.5%	75.7%
	教職員	児童	8.7%	56.5%	21.7%	13.0%	65.2%
家庭への情報発信	保護者	学校	58.4%	37.7%	3.2%	0.6%	96.1%
	児童						
	教職員	学校	39.1%	52.2%	4.3%	4.3%	91.3%
相談への真摯な対応	保護者	学校	68.2%	29.9%	1.3%	0.6%	98.1%
	児童						
	教職員	学校	65.2%	26.1%	8.7%	0.0%	91.3%
健康と安全を守る活動	保護者	学校	68.2%	28.6%	2.6%	0.6%	96.8%
	児童※	学校	55.4%	28.2%	8.5%	7.9%	83.6%
	教職員	学校	56.5%	34.8%	8.7%	0.0%	91.3%
施設設備と環境美化	保護者	学校	72.7%	26.0%	1.3%	0.0%	98.7%
	児童	学校	44.1%	40.7%	10.7%	4.5%	84.7%
	教職員	学校	26.1%	60.9%	13.0%	0.0%	87.0%
個への対応	保護者	学校	50.6%	42.9%	4.5%	1.9%	93.5%
	児童	先生	46.9%	32.8%	11.3%	9.0%	79.7%
	教職員	学校	43.5%	43.5%	13.0%	0.0%	87.0%
アフタースクール	保護者	学校	40.9%	51.3%	7.8%	0.0%	92.2%
	児童	学校	57.1%	22.0%	13.6%	7.3%	79.1%
	教職員						

※保護者、児童、教職員を対象に、各項目４段階の評価アンケートを実施した。
※上位２つの肯定的評価の合計を「スコア」と呼ぶこととし、主として保護者と児童のスコアについて述べる。

「**楽しい学校**」について、昨年度、児童数の増加と学年構成の変化により大きくダウンしたスコアが下げ止まったことは、学校生活の基盤が安定してきた証左と言える。今後は「楽しい」の質をさらに深め、知的好奇心を刺激する活動を充実させることで、さらなる向上を目指したい。

「**知力の伸長**」は、今年度最も顕著な伸びが見られた。特に児童スコアが大幅に上昇し、保護者、児童とも90％の大台を回復した。昨年度の課題であった「学習への手応え」が、授業改善や習熟度別の対応によって児童の実感として現れ始めたものと分析している。

「**体力の伸長**」について、保護者スコアは上昇傾向にあるが、児童スコアは84.2％にとどまり、昨年度の急落（-9.6％）からの大幅な回復には至らなかった。スポーツ行事の充実は保護者には評価されているものの、児童一人ひとりが自身の体力の向上を実感できるような、データに基づいたフィードバックや目標設定の仕組みをさらに強化する必要がある。

「**心力の伸長**」について、保護者、児童は概ね良好であるのに対し、最も教職員の評価が厳しい項目である。これは、「挨拶」の教職員スコアの低迷とも連動している。家庭や児童自身が見ている「優しさや安定」の裏側で、教職員は「レジリエンス」や「主体的な規範意識」の育成において、依然として高い理想に対する現状の不足を感じている。

【「知・徳・体」の伸長】
　過去のデータを俯瞰すると、「知力」が大きく伸長した一方で、「体力」と「心力」において児童・教職員の主観的スコアが伸び悩む傾向が見える 。特に「知・徳・体」のバランスにおいて、知的な満足度は高いものの、それが自律的な生活態度（徳）や自身の成長実感（体）にまで完全に波及していない可能性がある。今後は、学習で得た自信を、体力向上への挑戦や、他者を思いやる心の余裕へと繋げていく「全人的な成長」を促すアプローチが重要となる。
　児童スコアにおいて、「知力」は好調であるが、「友人関係（82.5％）」 や「個への対応（79.7％）」 は相対的に低くなっている。これは「知能」が伸びる時期だからこそ、集団の中での「自己」や「他者」との関係性に敏感になり、葛藤が増えている証拠とも言える。2026年度は、この知的な成長を土台にしつつ、他者と協調し、たくましく生きる「心力」の育成に、より重きを置いた教育課程を編成していく必要がある。

「**友人関係**」のスコアには、大人と子どもの認識の乖離が見られる。保護者スコアが昨年比＋8.8％と大きく改善した一方で、児童スコアはダウンとなった。学校行事等を通じて保護者から見える「仲の良さ」は改善しているものの、児童自身のコミュニティ内では、成長に伴う複雑な人間関係の悩みが増えていることが推察される。

「**挨拶**」については、依然として大きな課題が残っている。児童や保護者のスコアに対し、教職員スコアは39.1％と極めて低い水準が続いている。教職員から見て「自発的で気持ちの良い挨拶」が定着しているとは言い難く、マナーとしての挨拶から、心を通わせるコミュニケーションとしての挨拶へと昇華させるための指導を継続していく。

「**家庭への情報発信**」は96.1％と高い支持を得た。開校当初の「情報が届かない」という反省から、デジタルツールの活用や迅速な発信に努めてきた結果、保護者との信頼関係の土台が強固になったと受け止めている。この高い満足度を維持しつつ、今後は情報の「量」だけでなく「質」の向上にも注力したい。

「**個への対応**」の保護者スコアは93.5％に達し、昨年度に続き上昇した。一方で児童スコアは昨年度からは微増したものの、依然として2割の児童が「十分に見てもらえていない」と感じている現状がある。一人ひとりの小さな変化を見逃さない観察眼と、心の機微に触れる声かけを徹底し、すべての児童が「自分の居場所」を実感できる学校づくりを推進する。